



スーパーハヤテ隼

極早生エンバク新品種

「スーパーハヤテ隼」^{はやぶさ} [雪印種苗育成, 試作系統名・AS-5]
農林水産省品種登録出願品種

の特性と栽培の手引き

雪印種苗(株) 宮崎試験農場

山 渕 泰

1 はじめに

エンバク極早生品種「ハヤテ」はトウモロコシの収穫後に短期間で生育し、年内に収穫が可能なことから、手軽に栽培できる作物として愛用されています。《トウモロコシ+エンバク》の作付体系は冬期間に堆肥散布ができ、早期に圃場準備が完了し、トウモロコシの早播きができることがメリットとなって、関東以西を中心に定着いたしました。一方、西南暖地では、《トウモロコシ+イタリアンライグラス》の作付体系に「ハヤテ」を加え、イタリアンライグラスとの混播栽培が行われています。こうして、「ハヤテ」が広域に普及していく中で、年内収穫を前提に、より短期多収が望まれるようになりました。

2 育種目標と育成経過

1) 育種目標

「スーパーハヤテ隼」は従来の「ハヤテ」よりもさらに早く出穂し、しかも、草丈が高く、収量性を格段にアップさせることを目標に育成いたしました。したがって、9月中下旬の播種でも年内に出穂するので(西南暖地の場合)、播種適期が拡大できました。

2) 育種方法

系統育種法

3) 育成場所

雪印種苗(株)千葉研究農場

4) 育成経過

(昭和58年) 千葉研究農場温室にて、極早生系

の[ハヤテ×80-03 S]を交配し、7粒のF₁種子を採種した。

(昭和59年) 76粒のF₂種子を採種。

(昭和60年) 5系統のF₃種子を選抜、採種。

(昭和61年) 62系統のF₄種子を選抜、採種。

(昭和62年) 10系統のF₅種子を選抜、採種。

(昭和63年) 10系統のF₆種子を採種。

(平成元年) F₇種子を選抜、固定。

(平成2年～) 系統名をAS-5として、生産力検定試験、特性検定試験、各種栽培試験を宮崎試験農場・千葉研究農場にて実施した。その結果、優良と認め、平成4年3月25日に農林水産省に品種登録を申請した。

3 「スーパーハヤテ隼」の品種特性

1) 早晩性

早晩性は極早生で、夏播き年内どりの栽培に最適な品種です。

図1に、今夏より新発売となり「サビツヨシ」と比較した播種期と出穂期の関係を示しましたが、適期に播種した場合には、従来の極早生品種よりも4~7日早く穂が出ます。また、これより遅く播種した場合、従来の極早生品種では年内未出穂で

播種期	月 日	10				11				12			草丈 (cm)	乾物率 (%)		
		12	18	24	30	5	11	17	23	29	5	11			17	
早播き (8月26日)	スーパーハヤテ隼	◇	◇	◇	◇									141	29.6	
	サビツヨシ					◇	◇	◇	◇					123	23.5	
	N社S品種									◇	◇	◇	◇	139	22.1	
適期 (9月5日)	スーパーハヤテ隼									◇	◇	◇	◇	141	20.2	
	サビツヨシ												◇	110	20.0	
	N社S品種													132	19.0	
遅播き (9月25日)	スーパーハヤテ隼													114	18.6	
	サビツヨシ													◇	114	18.2
	N社S品種														(未出穂)	118

注) ◇ : 出穂始 ☆ : 出穂期

〈雪印種苗・宮崎試験農場 (1991年)〉

図1 播種期と出穂期の関係

終るところ、「スーパーハヤテ隼」では出穂します。また、秋播き翌春どりでは、ハヤテより3~5日程度早く出穂し、春播き初夏どりでは、ハヤテより3日程度早く出穂します。

すなわち、極早生エンバクの中で、「スーパーハヤテ隼」は播種期を問わず、最も早く出穂する品種です。

2) 収量性

「スーパーハヤテ隼」は極早生で、短期多収に優れた品種です。草型は長稈・直立型の草姿で、生育期間が短くても、草丈が高く、多収種です。

また、夏播き年内どりの「スーパーハヤテ隼」は出穂が極めて早く、子実の登熟も安定しています(標題写真)。

3) 耐倒伏性

宮崎試験農場における密植ストレスを与えた耐倒伏性の検定試験結果からは、耐倒伏性は「強」と判断されます(図2参照)。ただし、安定した飼料生産を行うには、播種量は6~8 kg/10aとし、稈を太く育てるのが大事です。

4) 耐病性

「牧草と園芸」第41巻(平成5年6月号)に掲載したように、エンバク共通の重要病害の一つに『冠さび病』があります。冠さび病は夏播き年内どりでは10月中旬以降の出穂前後、秋播き翌春どりでは5月上旬ころから発生し始め、激発すると大幅な減収をもたらします。

「スーパーハヤテ隼」の冠さび病抵抗性は中程度ですので極端な早播きは避けるのがよいでしょう。例年、冠さび病が多発する地域では、「サビツヨシ」

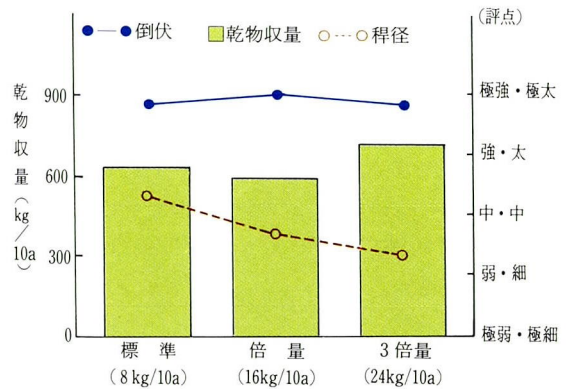


図2 「スーパーハヤテ隼」の播種量と倒伏の関係

を栽培しましょう。

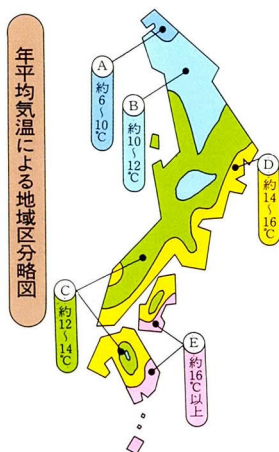
4 「スーパーハヤテ隼」の栽培基準

1) 播種適期

「スーパーハヤテ隼」は極早生で出穂が早いので、播種適期幅が従来の品種より拡大しました。すなわち、トウモロコシの収穫が終了した後、天候悪化によって作業が遅れた場合でも、夏播き年内どりのエンバクを作付できるわけです。

夏播き年内どりの具体的な「スーパーハヤテ隼」の播種適期は、西南暖地では9月上旬~9月下旬、関東地方では8月下旬~9月中旬が播種適期です。これは従来の品種より7~10日間も播種適期幅が拡大したことになります。代表的な作付体系を図3に示しました。

秋播き翌春どりでは、一般的なムギの作付時期と同じで、西南暖地では11月中旬~12月上旬、関東地方では10月下旬~11月中旬が播種適期です。



地域	8月	9	10	11	12~3	4	5	6	7	8	スーパーハヤテ隼の収量(t/10a)	
											生草収量	乾物収量
C	スーパーハヤテ隼 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)										3.0	0.7
	(草地更新)											
	スノーデント115 (播種期: 4月, 5月; 収穫期: 6月)											
D	スーパーハヤテ隼 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)										3.0	0.7
	イタリアン(サクラワセ)混播 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)											
	スノーデント125Z (播種期: 4月, 5月; 収穫期: 6月)											
	スノーデント119 (播種期: 4月, 5月; 収穫期: 6月)											
E	スーパーハヤテ隼 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)										4.0	1.3
	スノーデント135 (播種期: 4月, 5月; 収穫期: 6月)											
	スーパーハヤテ隼 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)											
E	スーパーハヤテ隼 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)										3.0	0.8
	スノーデント127 (播種期: 4月, 5月; 収穫期: 6月)											
	イタリアン(タチマサリ)混播 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)											
E	スーパーハヤテ隼 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)										3.0	0.7
	スノーデント125Z (播種期: 4月, 5月; 収穫期: 6月)											
	イタリアン(タチマサリ)混播 (播種期: 8月, 9月, 10月; 収穫期: 11月)											

注) ○: 播種期 ■: 収穫期

図3 「スーパーハヤテ隼」の作付体系

また、春播き初夏どりでは梅雨前までの収穫が基本で、西南暖地では3月上旬～3月下旬、関東地方では3月中旬～4月上旬が播種適期です。

2) 播種量

夏播き年内どりでは8～10 kg/10 a(ただし、早播きでは6～8 kg/10 a), 秋播き翌春どりでは6～8 kg/10 a, 春播き初夏どりでは8～10 kg/10 a が標準の播種量です。

3) 刈取り適期

夏播き年内どりでは、出穂を目安に刈取りを行なって下さい。早播きして子実を期待する場合は、降霜後(登熟が完全に停止する)まで待つことができますが、基本的には乳熟期でよいでしょう。

秋播き翌春どりの乾草・ロールペール利用では、繊維の消化性が良い止葉期～出穂期が、サイレージ利用では、水分が75%前後に低下してくる乳熟期(出穂後約2週間目)が刈取り適期になります。

4) イタリアンライグラスとの混播栽培

(西南暖地中心)

「スーパーハヤテ隼」は極早生で草丈が高く、混播した場合に年内に多収穫を得ることができ、イタリアンライグラスとの混播栽培に適します(写真1)。

また、混播栽培は従来のエンバク品種であれば早播きが必要で、この場合、イタリアンライグラスはイモチ病の発生が懸念されたため、マンモスBなどの中生～中晩生品種との組み合わせが主体でした。「スーパーハヤテ隼」であれば遅播き(播種適期は9月中旬～9月下旬)ができるため、タチ



写真1 スーパーハヤテ隼とイタリアンライグラス・タチワセの混播

ワセ、タチマサリなどの早生品種を組み合わせることができるわけです。

播種量は「スーパーハヤテ隼」3～4 kg/10 a とイタリアンライグラス(タチワセ、タチマサリ、またはサクラワセ)3 kg/10 a を標準とします。

5 「スーパーハヤテ隼」と「サビツヨシ」の使い分けについて

今年より極早生エンバクで新発売いたします「スーパーハヤテ隼」と「サビツヨシ」の2品種をうまく使い分けることにより、夏播きエンバクによる飼料生産をより安定多収なものにすることができます(表1参照)。

1) 夏播き年内どり

「スーパーハヤテ隼」は出穂が早く、遅播きしても年内出穂が見込めるので、標準播き～遅播きに適します。また、「サビツヨシ」は文字どおり“冠さび病抵抗性”ですから早播きに適します。また、播種時期にかかわらず、冠さび病の発生が多い地域には「サビツヨシ」が効力を発揮します。

2) 秋播き翌春どり

秋播き栽培では、春の収穫が早いほど夏作物への移行がスムーズになるので、出穂の早い「スーパーハヤテ隼」が有利です。ただし、無霜地帯では、冠さび病の到来が早い「サビツヨシ」を選択して下さい。

表1 夏播き年内どりの品種別播種適期

播種期		スーパーハヤテ隼	サビツヨシ	N社S品種
西南暖地	関東			
8月25日	8月20日	△	◎	△
9月5日	8月25日	◎	◎	○
9月15日	9月5日	◎	○	×
9月25日	9月10日	◎	△	×

注) ◎: 最適, ○: 適, △: 可, ×: 不適

6 おわりに

「スーパーハヤテ隼」は「ハヤテ」をより早く、そして、より多く収穫する目的で育成いたしました。

自給飼料の作付に当たり、より多収を狙うことが経営上プラスになることはいまでもありません。ぜひ、お試し下さい。